

目的 前報¹⁾で学校教育の中でパソコン利用を進める上での問題点を提起した。ここではその解決法の実例として、我々が開発し、学内外で利用されている家庭科（生活科学）CAIソフトウェア“オイコス”の新版を紹介して分析する。

方法 “オイコス”は学校教育の中で比較的利用率の高い機種を用い、利用者が自由に改変しやすいようにBASIC言語で書いたプログラムと各種データをフロッピーディスク2枚に収めて作成した。プログラムは同言語で処理可能な習作的なものにし、利用者がより機能の高いものに改変することも期待している。中には学生が作成して発表者が編集したものも多数含まれている。学外への頒布は著作権上登録できないファイル等の入ったディスクを希望者から送付してもらい、必要ファイルをコピー（使用方法のドキュメントもテキストファイルで同梱）して返送するようにした。フリーソフトウェアとしたので学内でのコピーや同様な手法による他者への譲渡も可能である。

結果 現在、各種アニメーション、織物デザイン、プロッタによるスカートパターン作製、分子モデリング、マウスによるお絵描き等のプログラムを掲載した新バージョンが完成し、高校、大学等に無料配布している。安価な手数料でソフトウェアの広報・流通を行う機関がない現在、フロッピーへのコピー・郵送等煩雑な作業はソフトウェア作成者のボランティアに委ねられているが、早急な解決が必要であろう。今後も各プログラムの改変や広範な生活科学を網羅する新作の追加を続けていく予定である。

※“オイコス”の入手方法については短大（FAX 025-270-5173）本間研究室まで。

1) 本間善夫，日本家政学会第44回大会研究発表要旨集，p.277（1992年，仙台市）